

年 組 (氏名)

[有明抄] (2018.2.17)

○「わたしが一番きれいだったとき」全文を朗読してみよう。

○この詩の形式は () 詩といいます。

○全八連のうち、印象に残る連を書き出してみよう。

Empty box for writing an impression from the poem.

○茨木さんは、なぜすべての連を「わたしが一番きれいだったとき」で書き出しているのだろう。

Empty box for explaining why the poet wrote all the lines with the title.



○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

Empty box for writing a title for the poem.

有明抄

〈わたしが一番きれいだったとき〉まわりの人達が沢山死んだ工場で海で 名もない島でわたしはおしゃれのきつかけを落してしまっ た。 詩人、茨木のり子 (1926~2006年) の詩「わたしが一番きれいだったとき」の一節である。きょうは茨木の命日◆終戦時、数えて20歳だった。戦争のために青春を奪われ、時間を取り戻せない無念をうたって同世代の女性たち共感を得た。終戦直後、同級生の中には進駐軍を恐れ、操を守るべく丸坊主になった人もいたという◆ 〈「ああ、私はいま、はたちのね」と、しみじみ自分の年齢を意識した。エッセイにそう書いた茨木は、戦時中、化粧することも恋文をもらうこともなく、国防婦人会に服装を注意されたことも。軍需工場で真っ黒になって働いた◆大義という色に染まった時代とは違う、今。だが、世界を見渡せば「自国第一」「宗教ファースト」と、特定の何ものか以外を排除しがちな、寛容さに欠ける空気が漂う個人の自由を封じ込め、共同体の秩序を優先させる危うさをはらむ◆〈わたしが一番きれいだったとき〉だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった／男たちは拳手の礼しか知らなくて／きれいな眼差だけを残し皆死んでいった。人間らしく生きられる世の中であってほしい。茨木からの伝言である。(童)

Grid for writing with vertical axis labels 35, 30, 25, 20, 15, 10, 5.